【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

 【提出先】
 近畿財務局長

 【提出日】
 平成23年2月8日

【四半期会計期間】 第14期第3四半期(自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

【会社名】 株式会社プレサンスコーポレーション

【英訳名】PRESSANCE CORPORATION【代表者の役職氏名】代表取締役社長 山岸 忍

【本店の所在の場所】 大阪市中央区城見一丁目 2番27号

【電話番号】06-4793-1650【事務連絡者氏名】専務取締役管理部長 土井 豊【最寄りの連絡場所】大阪市中央区城見一丁目2番27号【電話番号】06-4793-1650

【電話番号】06-4793-1650【事務連絡者氏名】専務取締役管理部長 土井 豊【縦覧に供する場所】株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第 3 四半期連結 累計期間	第14期 第 3 四半期連結 累計期間	第13期 第 3 四半期連結 会計期間	第14期 第 3 四半期連結 会計期間	第13期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 12月31日	自平成22年 4月1日 至平成22年 12月31日	自平成21年 10月 1 日 至平成21年 12月31日	自平成22年 10月 1 日 至平成22年 12月31日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(千円)	25,260,875	28,268,774	9,155,944	6,224,127	31,880,926
経常利益(千円)	4,662,081	4,632,394	1,568,760	775,498	4,711,065
四半期(当期)純利益(千円)	2,608,080	2,617,651	874,791	421,588	2,641,696
純資産額(千円)	-	-	19,999,589	22,278,689	20,032,040
総資産額(千円)	-	-	33,522,750	39,596,118	38,328,016
1株当たり純資産額(円)	-	-	270,484.03	301,307.68	270,922.92
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	35,272.93	35,402.37	11,831.10	5,701.77	35,727.57
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額(円)	-	35,366.02	-	5,692.38	-
自己資本比率(%)	-	-	59.7	56.3	52.3
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,004,191	3,372,544	-	-	69,380
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	886,072	89,586	-	-	911,002
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,572,737	1,737,822	-	-	3,590,119
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	-	-	5,587,072	12,535,116	7,514,335
従業員数(人)	-	-	177	199	169

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 - 2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
 - 3.第13期第3四半期連結累計期間、第13期第3四半期連結会計期間及び第13期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、新株予約権の行使価格が期中平均株価を上回っており、1株当たり四半期(当期)純利益が希薄化しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数(人)	199
---------	-----

(注)従業員数は就業人員であります。

(2)提出会社の状況

平成22年	∓12月31	日現在
-------	--------	-----

従業員数 (人)	126
----------	-----

(注)従業員数は就業人員であります。

第2【事業の状況】

- 1【生産、受注及び販売の状況】
 - (1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注状況

当第3四半期連結会計期間の契約状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

			契約高				契約残高			
セグメント の名称	区分	数量 (戸)	前年 同期比 (%)	金額 (千円)	前年 同期比 (%)	数量 (戸)	前年 同期比 (%)	金額 (千円)	前年 同期比 (%)	
	ワンルーム マンション	213	114.5	3,238,200	110.6	111	82.2	1,624,600	75.5	
	ファミリー マンション	249	234.9	7,265,347	185.5	361	313.9	10,678,410	250.9	
不動産 販売事業	シニア向け マンション	49	119.5	1,461,367	124.3	59	109.3	1,611,874	95.1	
	一棟販売	158	125.4	1,919,762	142.2	228	77.8	2,628,709	79.8	
	その他 不動産	19	172.7	801,301	353.0	7	175.0	592,104	591.6	
報告セク	ブメント計	688	146.4	14,685,977	153.0	766	127.5	17,135,697	149.0	

- (注) 1. 本表におきまして「受注高」は「契約高」と読み替えております。
 - 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 - 3.上記の金額には、追加工事の金額も含まれております。
 - 4.一棟販売とは、マンション一棟もしくはその一部をマンション販売業者に卸売する方法であります。
 - 5.「その他不動産」の数量には、中古物件等を含めております。
 - 6.「その他不動産」の契約残高の内、540、895千円(3戸)は分譲マンション内の商業用店舗であります。
 - 7.報告セグメントに含まれない事業セグメントについては、該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売(引渡)実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

ヨ弟3四千期連結会計期間の販売(引援)美績をセクメントことに示すと、次のとおりであります。							
カゲソン 小の名称	区 八	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)					
セグメントの名称	区分	数量 (戸)	前年同期比 (%)	金額 (千円)	前年同期比 (%)		
ワンルーム マンション		190	118.8	3,009,500	125.1		
不動産販売事業	ファミリー	_	-	_	_		
	マンション シニア向け						
	マンション	39	32.2	1,219,976	31.7		
	一棟販売	99	110.0	1,024,104	101.7		
	その他不動産	13	76.5	642,814	189.2		
報告セグメント計		341	77.0	5,896,395	66.6		
その他		-	-	327,732	107.4		
合計		341	77.0	6,224,127	68.0		

- (注)1.上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 - 2. 上記の金額には、追加工事の金額も含まれております。
 - 3.一棟販売とは、マンション一棟もしくはその一部をマンション販売業者に卸売する方法であります。
 - 4.「不動産販売事業」における「その他不動産」の数量には、中古物件等を含めております。

2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。 また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、雇用情勢及び所得環境に改善がみられていないこと、円高の進行等によりデフレ圧力が強まっていること、輸出が伸び悩んでいること等から、企業の収益環境は依然として全体的に厳しく、先行きは不透明であります。

当不動産業界におきましては、住宅ローン減税政策が実施されたことから、契約率が回復基調にて推移し、需給バランスが改善いたしました。また、金融機関の融資姿勢にも回復の兆しがみられてきたこと、住宅着工戸数が増加傾向にあること等から、住宅地地価の下げ止まりの傾向も鮮明になっております。

このような状況におきまして、当社グループは、来期以降の収益を確保するために、首都圏のマンション開発用地を取得する等、営業エリアの拡大を図りつつ、積極的に開発用地を取得しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高6,224百万円(前年同期比32.0%減)、営業利益806百万円(同48.4%減)、経常利益775百万円(同50.6%減)、四半期純利益421百万円(同51.8%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(不動産販売事業)

不動産販売事業におきましては、当第3四半期会計期間においてワンルームマンション売上高3,009百万円 (190戸)、シニア向けマンション売上高1,219百万円(39戸)、一棟売上高1,024百万円(99戸)、その他不動産販売事業収入642百万円(13戸)となり、不動産販売事業の合計売上高は5,896百万円(前年同期比33.4%減)、営業利益は766百万円(同49.8%減)となりました。

(その他)

その他の不動産賃貸事業等におきましては、自社保有賃貸物件が順調に稼働いたしました。その結果、その他の売上高は327百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益は134百万円(同6.4%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、第2四半期連結会計期間末と比べ1、376百万円増加し、12、535百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。 (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、増加した資金は636百万円(前年同期は3,790百万円の減少)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益が751百万円となったこと、前受金が509百万円増加したこと、及び法人税等を1,023百万円支払ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、減少した資金は0.5百万円(前年同期は3百万円の減少)となりました。これは主に、固定資産の取得による支出が3百万円あったこと、固定資産の売却による収入が1百万円、投資有価証券の売却による収入が1百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、増加した資金は740百万円(前年同期は430百万円の減少)となりました。これは主に、金融機関からの借入金が740百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間おいて、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの主力事業である不動産販売事業は、各種不動産関連法規の改廃、景気変動、原材料価格、土地価格、金利動向及び住宅税制並びにその他税制の影響を受けやすいため、景気の悪化、金利の上昇、税制の改定、マンション開発用地の価格上昇及び原材料価格の上昇が発生した場合には、顧客の購買意欲の低下につながり、当社グループの経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金需要の主なものは、不動産販売事業の開発用地取得資金及び物件開発資金であります。開発用地取得資金は主に金融機関からの借入によって調達すること、物件開発資金は内部留保による自己資金で対応することで、金融費用の低減及び資本コストの管理に努めております。

(7) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループは「既成概念や枠にとらわれず、常に創意工夫をし、都市と人間の最適な環境創造(時代の選別に耐えられる真に価値あるマンションの提供)を通じて社会に貢献する」を経営理念としており、この経営理念を通じてステークホルダー(利害関係者)に貢献することが社会的責任であると認識しております。

この社会的責任を果たすために、当社グループの経営資源である「優秀な人材」の確保と教育を通じて、利益計画を達成し得る組織を維持することを基本的な方針としております。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	240,000
計	240,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成22年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	73,940	74,425	東京証券取引所 (市場第二部)	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	73,940	74,425	-	-

⁽注)「提出日現在発行数」欄には、平成23年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

会社法第236条、会社法第238条及び会社法第239条の規定に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成19年3月8日 臨時株主総会決議(平成19年3月19日 取締役会決議)

半成19年3月8日 臨時株主総会決議(半成19年3月	月19日 取締役会决議)		
	第 3 四半期会計期間末現在 (平成22年12月31日)		
	1,360(注) 1		
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式		
新株予約権の目的となる株式の数(株)	1,360(注)1		
新株予約権の行使時の払込金額(円)	167,000		
新株子の佐体期間	自 平成21年4月1日		
新株予約権の行使期間 	至 平成23年3月31日		
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行	発行価格 167,000		
価格及び資本組入額(円)	資本組入額 83,500		
新株予約権の行使の条件	・新株予約権者は権利行使時において、当社又は当社子会社の取締役もしくは従業員の地位を有しているものとする。 ・新株予約権者が死亡した場合は、相続人がその権利を行使することができる。		
新株予約権の譲渡に関する事項	・新株予約権を譲渡する場合には、取締役会の承認を要するものとする。 ・新株予約権の質入れその他一切の処分は認めないものとする。		
代用払込みに関する事項	-		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-		

- (注) 1.新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式の数は、取締役会決議から、退職による権利喪失者の当該数 を控除したものであります。
 - 2. 当社が株式分割又は併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとする。但し、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点において行使されていない新株予約権の目的となる株式の数について行なわれ、調整の結果生じる1株未満の端数についてはこれを切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

また、当社が他社と吸収合併若しくは新設合併を行い、新株予約権が承継される場合又は当社が新設分割若しくは吸収分割を行う場合、当社は必要と認める株式数の調整を行う。

3.株式の分割及び調整前払込金額を下回る価額で新株を発行するときは、次の算式により1株当たりの払込金額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

調整後払込金額 = 調整前払込金額 × 既発行株式数 + 新規発行株式数 × 1株当たり払込金額 既発行株式数 + 分割・新規発行による増加株式数 (併合の場合は減少株式数を減ずる)

- (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】 該当事項はありません。
- (4) 【ライツプランの内容】該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成22年10月1日~ 平成22年12月31日	-	73,940	1	1,123,854	-	1,053,854

(注) 平成23年1月1日から平成23年1月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数485株、資本金及び 資本準備金がそれぞれ40百万円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、タワー投資顧問株式会社から平成22年11月24日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成22年11月19日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、株主名簿の記載内容が確認できないため、当社として実質所有株式数の確認ができません。

なお、タワー投資顧問株式会社の大量保有報告書の写しの内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
タワー投資顧問株式会社	東京都港区芝大門1-2-18	10,538	14.25

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成22年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成22年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	•	•	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 73,940	73,940	-
単元未満株式	•	•	-
発行済株式総数	73,940	-	-
総株主の議決権	•	73,940	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が5株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数5個が含まれております。

【自己株式等】

平成22年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	199,500	195,600	177,000	173,000	172,800	172,000	171,200	183,700	242,000
最低(円)	168,800	163,100	166,500	167,000	167,200	167,400	167,800	168,100	181,700

⁽注)最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

3【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2.監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び前第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

(単位:千円)

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

前連結会計年度末に係る 当第3四半期連結会計期間末 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日) (平成22年3月31日) 資産の部 流動資産 現金及び預金 12,585,116 7,514,335 受取手形及び売掛金 32.578 33,153 販売用不動産 3,666,169 7,724,908 仕掛販売用不動産 18,843,821 18,209,573 原材料及び貯蔵品 5,129 2,225 その他 530,041 815,527 流動資産合計 35,662,856 34,299,723 固定資産 有形固定資産 2,874,204 2,969,097 賃貸不動産(純額) 建設仮勘定 368,249 354,053 202.036 198,656 その他(純額) 有形固定資産合計 3,444,490 3,521,808 無形固定資産 3,729 4,908 投資その他の資産 485,042 501,575 4,028,292 固定資産合計 3,933,262 資産合計 39,596,118 38,328,016 負債の部 流動負債 支払手形及び買掛金 8,726 3,869,945 1年内返済予定の長期借入金 4,789,200 1,548,800 未払法人税等 957,813 728,164 前受金 1,171,393 981,780 賞与引当金 22,676 28,395 その他 1,030,083 693,505 流動負債合計 4,739,494 11,090,990 固定負債 長期借入金 12,312,400 6,965,200 役員退職慰労引当金 265,535 239,785 12,577,935 7,204,985 固定負債合計 負債合計 17,317,429 18,295,975 純資産の部 株主資本 資本金 1,123,854 1,123,854 資本剰余金 1,053,854 1,053,854 利益剰余金 20,100,258 17,852,306 株主資本合計 22,277,967 20,030,015 評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金 722 2,024 評価・換算差額等合計 722 2,024 純資産合計 22,278,689 20,032,040 負債純資産合計 39,596,118 38,328,016

(2)【四半期連結損益計算書】 【第3四半期連結累計期間】

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	25,260,875	28,268,774
売上原価	17,330,926	19,945,732
売上総利益	7,929,948	8,323,042
販売費及び一般管理費	3,232,978	3,598,250
営業利益	4,696,970	4,724,792
営業外収益		
受取利息	1,330	1,529
受取配当金	83	290
違約金収入	46,145	25,428
その他	9,163	19,514
営業外収益合計	56,723	46,762
営業外費用		
支払利息	91,611	139,160
営業外費用合計	91,611	139,160
経常利益	4,662,081	4,632,394
特別利益		
固定資産売却益		872
特別利益合計	-	872
特別損失		
固定資産売却損	317	83
固定資産除却損	2,290	2,728
投資有価証券売却損	-	22,535
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	<u> </u>	24,500
特別損失合計	2,608	49,848
税金等調整前四半期純利益	4,659,473	4,583,418
法人税等	2,051,393	1,965,767
少数株主損益調整前四半期純利益		2,617,651
四半期純利益	2,608,080	2,617,651

【第3四半期連結会計期間】

(単位:千円)

		(十四・113)
	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
売上高	9,155,944	6,224,127
売上原価	6,374,215	4,263,169
売上総利益	2,781,728	1,960,958
販売費及び一般管理費	1,218,440	1,153,996
営業利益	1,563,288	806,962
営業外収益		
受取利息	205	299
受取配当金	2	2
違約金収入	37,480	8,456
その他	4,708	6,839
営業外収益合計	42,396	15,597
営業外費用		
支払利息	36,924	47,060
営業外費用合計	36,924	47,060
経常利益	1,568,760	775,498
特別利益		
固定資産売却益	<u> </u>	377
特別利益合計	<u> </u>	377
特別損失		
固定資産除却損	-	1,605
投資有価証券売却損	<u> </u>	22,535
特別損失合計		24,141
税金等調整前四半期純利益	1,568,760	751,734
法人税等	693,969	330,145
少数株主損益調整前四半期純利益	<u> </u>	421,588
四半期純利益	874,791	421,588

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,659,473	4,583,418
減価償却費	120,674	118,373
賞与引当金の増減額(は減少)	18,237	5,718
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	17,250	25,750
受取利息及び受取配当金	1,414	1,820
支払利息	91,611	139,160
固定資産売却損益(は益)	317	788
固定資産除却損	2,290	2,728
投資有価証券売却損益(は益)	-	22,535
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	24,500
たな卸資産の増減額(は増加)	2,606,112	3,424,491
仕入債務の増減額(は減少)	7,943	3,861,218
前受金の増減額(は減少)	75,904	189,613
未払消費税等の増減額(は減少)	197,716	416,479
未収消費税等の増減額(は増加)	111,829	215,347
その他	40,069	60,156
小計	1,984,198	5,232,696
利息及び配当金の受取額	1,527	2,099
利息の支払額	88,065	131,328
法人税等の支払額	2,901,851	1,730,922
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,004,191	3,372,544
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	50,000
固定資産の取得による支出	887,078	43,691
固定資産の売却による収入	1,972	3,624
投資有価証券の取得による支出	966	1,009
投資有価証券の売却による収入		1,489
投資活動によるキャッシュ・フロー	886,072	89,586
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	250,000	-
長期借入れによる収入	5,460,000	8,131,000
長期借入金の返済による支出	2,268,000	6,024,200
配当金の支払額	369,262	368,977
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,572,737	1,737,822
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	682,473	5,020,781
現金及び現金同等物の期首残高	4,904,599	7,514,335
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,587,072	12,535,116

【継続企業の前提に関する事項】 該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	資産除去債務に関する会計基準の適用
	第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会
	計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適
	用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しており
	ます。
	これにより、税金等調整前四半期純利益は、24,500千円減少しております。

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間
(自 平成22年4月1日
至 平成22年12月31日)

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

当第3	3 四半期連結会計期間
(自	平成22年10月 1 日
至	平成22年12月31日)

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1.たな卸資産の評価方法	たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについ
	てのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
2 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の算	繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経
定方法	営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるの
	で、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プラン
	ニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間		
	(自 平成22年4月1日		
	至 平成22年12月31日)		
1 . 税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税		
	引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税		
	引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。		
	なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。		

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末			前連結会計年度末
	(平成22年12月31日)		(平成22年3月31日)
1	有形固定資産の減価償却累計額に	は、409,791千円であ	1 有形固定資産の減価償却累計額は、305,474千円であ
	ります。		ります。
2	保証債務		
	連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対		
	し、債務保証を行っております。		
	(分譲マンション共同事業者)		
	㈱日商エステム	440,000千円	
	(株)プロヴァンスコーポレー ション	220,000千円	
	計	660,000千円	

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累		当第3四半期連結累計期間		
(自 平成21年4月	1 日	(自 平成22年4月1日		
至 平成21年12月3		至 平成22年12月	31日)	
販売費及び一般管理費のうち主要		販売費及び一般管理費のうち主		
のとおりであります。		のとおりであります。		
販売手数料	1,317,686 千円	販売手数料	1,436,798 千円	
広告宣伝費	95,660 千円	広告宣伝費	145,260 千円	
役員報酬	246,680 千円	役員報酬	265,020 千円	
給与手当	873,275 千円	給与手当	944,096 千円	
賞与	38,078 千円	賞与	49,768 千円	
賞与引当金繰入額	16,363 千円	賞与引当金繰入額	22,516 千円	
退職給付費用	4,805 千円	退職給付費用	5,056 千円	
役員退職慰労引当金繰入額	22,500 千円	退職金	3,500 千円	
減価償却費	17,005 千円	役員退職慰労引当金繰入額	25,750 千円	
		減価償却費	22,191 千円	

前第3四半期連結会計		当第3四半期連結会計期間			
(自 平成21年10月 1			(自 平成22年10月1日		
至 平成21年12月31	目)	至 平成22年12月3	1日)		
販売費及び一般管理費のうち主要な	は費目及び金額は次	販売費及び一般管理費のうち主要	な費目及び金額は次		
のとおりであります。		のとおりであります。			
販売手数料	552,513 千円	販売手数料	445,002 千円		
広告宣伝費	39,435 千円	広告宣伝費	50,275 千円		
役員報酬	79,380 千円	役員報酬	92,970 千円		
給与手当	295,877 千円	給与手当	315,812 千円		
賞与	4,444 千円	賞与引当金繰入額	22,516 千円		
賞与引当金繰入額	16,363 千円	退職給付費用	1,726 千円		
退職給付費用	1,555 千円	役員退職慰労引当金繰入額	8,750 千円		
役員退職慰労引当金繰入額	8,250 千円	減価償却費	7,838 千円		
減価償却費	5,764 千円				

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期		当第3四半期連結累計期間	
(自 平成21年4月1日		(自 平成22年4月1日	
至 平成21年12月31日)	至 平成22年12月31日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高	高と四半期連結貸借	現金及び現金同等物の四半期末残高と	四半期連結貸借
対照表に掲記されている科目の金額と	この関係	対照表に掲記されている科目の金額との	関係
(平成21年12月31日現在)		(平成22年12月31日現在)	
	(千円)		(千円)
現金及び預金勘定	5,587,072	現金及び預金勘定	12,585,116
現金及び現金同等物	5,587,072	預入期間が3か月を超える定期預金	
7,000,000			50,000
		 現金及び現金同等物	10 505 116
		以並及び以並回寺初 	12,535,116

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1.発行済株式の種類及び総数

普通株式 73,940株

2. 自己株式の種類及び株式数 該当事項はありません。

3.新株予約権等に関する事項 該当事項はありません。

4.配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年 6 月24日 定時株主総会	普通株式	369,700	5,000	平成22年3月31日	平成22年 6 月25日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	不動産事業	その他事業	計	消去又は全社	連結
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	8,850,745	305,198	9,155,944		9,155,944
(2) セグメント間の内部売上					
高又は振替高					
計	8,850,745	305,198	9,155,944		9,155,944
営業利益	1,526,672	126,357	1,653,029	(89,741)	1,563,288

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	不動産事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	24,366,549	894,326	25,260,875		25,260,875
(2) セグメント間の内部売上					
高又は振替高					
計	24,366,549	894,326	25,260,875		25,260,875
営業利益	4,610,394	352,003	4,962,398	(265,428)	4,696,970

(注) 1. 事業区分は事業内容を勘案して、下記のとおり分類しております。

不動産販売事業 マンションの販売、販売委託、マンション販売に付随する業務 その他事業 不動産賃貸・仲介・管理、損害保険代理業、マンションの内装工事等

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

海外売上高がないため該当事項はありません。

【セグメント情報】

1.報告セグメントの概要

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)及び当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)

当社グループの報告セグメントは、当社及び子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、マンションの企画開発と販売を主たる事業としており、「不動産販売事業」を報告セグメントとしております。

2.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日) (単位:千円)

	報告セグメント		その他	合計
	不動産販売事業	計	(注)	
売上高				
外部顧客への売上高	27,143,605	27,143,605	1,125,169	28,268,774
セグメント間の内部売上高				
又は振替高				
計	27,143,605	27,143,605	1,125,169	28,268,774
セグメント利益	4,495,580	4,495,580	530,339	5,025,919

当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日至平成22年12月31日) (単位:千円)

	報告セグメント		その他	合計
	不動産販売事業	計	(注)	ロ前
売上高				
外部顧客への売上高	5,896,395	5,896,395	327,732	6,224,127
セグメント間の内部売上高				
又は振替高				
計	5,896,395	5,896,395	327,732	6,224,127
セグメント利益	766,919	766,919	134,398	901,318

- (注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸・仲介・管理、損害保険代理業、マンションの内装工事等を含んでおります。
 - 3.報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当第3半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	4,495,580
「その他」の区分の利益	530,339
全社費用(注)	301,126
四半期連結損益計算書の営業利益	4,724,792

当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日至平成22年12月31日)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	766,919
「その他」の区分の利益	134,398
全社費用(注)	94,356
四半期連結損益計算書の営業利益	806,962

- (注)全社費用は、主に事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - 4.報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報 該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(金融商品関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日) 該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日) 該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日) 該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日 至平成22年12月31日) 該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日 至平成22年12月31日) 該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日) 該当事項はありません。

(賃貸不動産関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日) 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1.1株当たり純資産額

	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
ſ	当第3四半期連結会計期間	末	前連結会計年度	末
	(平成22年12月31日)		(平成22年 3 月31	1日)
	1株当たり純資産額	301,307.68円	1 株当たり純資産額	270,922.92円

2.1株当たり四半期純利益金額等

前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	
1 株当たり四半期純利益金額 35,272.93円	1 株当たり四半期純利益金額	35,402.37円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につい	潜在株式調整後1株当たり四半期	25 266 02円
ては、潜在株式は存在するものの、新株予約権の行使価格が	純利益	35,366.02
期中平均株価を上回っており、1株当たり四半期純利益が		
希薄化しないため、記載しておりません。		

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益 (千円)	2,608,080	2,617,651
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	2,608,080	2,617,651
期中平均株式数(株)	73,940	73,940
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数 (株)		76
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当		
たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式		
で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの		
の概要		

四半期報告書

		$\overline{}$
前第3四半期連結会計期間	当第3四半期連結会計期間	
(自 平成21年10月1日	(自 平成22年10月1日	
至 平成21年12月31日)	至 平成22年12月31日)	
至 1 版21 平 12/1301日 /	土 17%22十12/1301日 /	
1株当たり四半期純利益金額 11,831.10円	1 株当たり四半期純利益金額 5,701.77	円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につい	潜在株式調整後1株当たり四半期 5.692.38	円
ては、潜在株式は存在するものの、新株予約権の行使価格が	純利益 5,092.38	
期中平均株価を上回っており、1 株当たり四半期純利益が		
希薄化しないため、記載しておりません。		

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	•	
四半期純利益 (千円)	874,791	421,588
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益 (千円)	874,791	421,588
期中平均株式数 (株)	73,940	73,940
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数 (株)		122
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当		
たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式		
で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの		
の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日 至平成22年12月31日) 該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

EDINET提出書類 株式会社 プレサンスコーポレーション(E04047) 四半期報告書

第二部【提出会社の保証会社等の情報】 該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月5日

株式会社プレサンスコーポレーション 取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 増田 豊 印業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 村上 和久 印業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社プレサンスコーポレーションの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社プレサンスコーポレーション及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

⁽注) 1.上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

^{2.}四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年2月7日

株式会社プレサンスコーポレーション 取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 増田 豊 印業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 村上 和久 印業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社プレサンスコーポレーションの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成22年10月1日から平成22年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社プレサンスコーポレーション及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

⁽注) 1.上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

^{2.}四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。